市川駅南口図書館
えきなん音楽だより Vol.23
2026.11

発行／市川市市川駅南口図書館（指定管理会社・㈱ヴィアックス） 〒272-0033 市川市市川南1-10-1 I-linkタウンいちかわザタワーズウエスト3階

深まる秋をクラシックと♪

音楽を読む

『明朗であれ』渡部　玄一

（スタッフ・Y）

渡部玄一『明朗であれ』は、評論家として知られた故・渡部昇一氏のご長男であり、音楽家でもある著書が、家族として見つめてきた父の姿を静かに綴ったエッセイ集です。書斎に残された膨大な蔵書や、ふとした会話の断片、晩年の穏やかな時間など、親子の思い出が丁寧に紡がれています。父への深い敬愛と、読み手の心にそっと寄り添うあたたかさが流れ、秋の夜長にゆっくり味わいたくなる一冊です。本書に登場するバッハ《ブランデンブルク協奏曲》は、明るく伸びやかな響きが印象的で、家族の記憶と音楽の喜びが重なり合うような余韻をのこしてくれます。6曲それぞれが違う楽器編成で彩られ、明るく生き生きとした響きが広がる作品集です。家族の会話のように、楽器同士が楽しげに寄り添い合います。



『明朗であれ』
渡部　玄一
出版社：海竜社
請求記号：289.1/ワ
中央図書館所蔵あり

ナクソスにログインしてアクセス！ ▶▶▶ ナクソスでは、《ブランデンブルク協奏曲》のさまざまな演奏が収録されています。音色の違いを聴き比べる時間が、秋のひとときを豊かにさせてくれますよ。

クラシックにふれよう

『喜びの島』クロード・ドビュッシー

（スタッフ・S）

「印象派音楽の先駆者、クロード・ドビュッシー。自身は「印象派」を認めていなかったようですが、革新的な作曲家であったことは間違いありません。
今回ご紹介するのは、1904年作曲のピアノ独奏曲『喜びの島』。名に違わぬ華やかさから、クラシック愛好者にも人気の曲です。トリルや装飾音符が多用され、速いテンポのアルペジオに、一気に引き込まれる冒頭。夢見心地のような複雑なリズムの中に、豊かな自然が表現された中盤の旋律は、雰囲気を伝える印象派音楽の性質がよく表れています。画家アントワーヌ・ヴァトーの作品「シテール島への船出」がモデルといわれており、芸術界と交流のあったドビュッシーらしさがうかがえますね。ちなみに「シテール島」は、ギリシャ神話に登場する愛と美の女神アフロディーテが降り立った伝説の島。その島への船出というなら、ロマンチックながらに体力と気力を必要とする技巧的な曲なのも頷けます。
ナクソスはもちろん、YouTubeなどの動画視聴も一興です。鍵盤を動く指の速さに、見ているだけで攣りそうに…。ぜひお好きな媒体でこの名曲に触れてみてください。



参考文献：『指先から感じるドビュッシー』青柳　いづみこ/著　春秋社　中央763.2/ア
『ドビュッシーをめぐる変奏』アンドレ・シェフネル/著　山内　里佳/訳　みすず書房　中央762.3/ド
『ドビュッシーとピアノ曲』マルグリット・ロン/著　室　淳介/訳　音楽之友社　中央763.2/ロ

ナクソスにログインしてアクセス！ ▶▶▶ ドビュッシーは当初ピアニストを目指していましたがトリルは苦手だったそう。喜びの島以外にも小曲組のメヌエットなど、トリルを多用する曲を作っているのは、その鬱憤を作曲で晴らしているからでしょうか。ナクソスで是非その難しさと美しさを感じてみてください。

編集担当のひとこと

今年は暑さが収束するのが早く、久しぶりに秋らしい日々を過ごすことができました。本格的に寒くなる前のつかの間のいい季節を味わいたいですね。ドビュッシーの『月の光』（ベルガマスク組曲第3番）は夜の静寂を感じさせる秋にピッタリの曲ですね。ドビュッシーには『枯葉』（前奏曲集第2巻）というタイトルの曲もありますが、枯葉から連想される寂しい曲調ではなく、金色・黄色などに輝く落ち葉をイメージした色彩豊かな明るい曲です。過ぎゆく秋と共に楽しみたいですね。